

大田区自立支援協議会 防災・あんしん部会議事録

文責：事務局

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第6回 防災・あんしん部会				
(2) 開催日時	令和5年12月6日(水) 13:30 ~ 15:30				
(3) 開催場所	障がい者総合サポートセンター A棟5階 多目的室				
(4) 出席した 委員、事務局等	委員 (部会長：志村 陽子) <敬称略>				
	蛭子 明子	福田 美和	栗田 修平	生駒 友一	石塚 由江
	宇田尻 浩司	西條 由美子	棧敷 洋子		
	事務局：森合 美穂、檜山 咲紀、江川 奈保美、堀内 蘭				
1 連絡・確認事項					
(1) 司会・書記の確認(司会：福田委員、書記：事務局)					
(2) 参加者・配付資料の確認 欠席者：名川会長、山内委員、一色委員、北畠委員、窪田委員、小池委員、近藤委員					
(3) 運営会議報告・他報告 志村部会長から報告。 <ul style="list-style-type: none"> ・12月5日に運営会議を実施。3月の本会に向けて内容について検討した。従来の本会の報告だけではなく、全体交流会を活かした本会委員同士の交流の希望があがっている。1月の運営会議にて、議題について確定する。 ・11月8日に防災会議へ出席。東京都では防災計画の見直しに伴い、被災状況の見直しを行っている。大田区も準じて計画を見直す。 ・11月14日に避難行動要支援者対策連絡会議へ出席。避難行動要支援者計画の行政の対象範囲の拡大と、避難の考え方について改めて周知された。 ・おおたTSネットにて映画上映会を実施する。興味のある方は申込をしてほしい。 					
2 前回専門部会の振返り					
(1) 第4回専門部会の議事録・ご意見カード集約					
(ア) 議事録について <ul style="list-style-type: none"> ・第4回の運営会議にて質問のあった緊急医療救護所について、本日「資料3」として一覧を配布するため、各自の確認をお願いする。 					
(イ) ご意見カードの集約について <ul style="list-style-type: none"> ・第4回では11月のまちあるきの準備を行ったため、それに関する意見が寄せられた。 					
3 議題					
(1) まちあるきのまとめ 各グループに分かれて、まちあるきについて、地図や写真を用いて模造紙にまとめる。					
(2) 各グループのまとめの報告 まとめた内容について、グループリーダーから全体へ説明。					
(ア) Aグループ <ul style="list-style-type: none"> ・志茂田福祉センター、西六郷小学校、タイヤ公園、志茂田福祉センターに戻るルートを歩いた。 ・街中には、大田区の掲示板があり、災害時に役立つ多くの情報が掲載されている。途中消火栓や防災倉庫などが設置。西六郷小付近には、消火器が所々に配置されていた。これらを把握しておくといよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・住宅街で道が狭く、古い家や空き家もみられ、老朽化したものは倒壊の恐れ、窓ガラスの飛散の心配あり。新しい家ほどサッシなどで安全性は高い。その中でプロ 					

ック塀も多くみられ、控え壁があるものや高さが低いものは安全性が高い。

・教習所横の歩道は狭く、人と車いすがすれ違ふことが困難。自転車も多い。災害時に、踏切が閉鎖されたままだと、車の渋滞もあり、障がいのある方は更に移動が難しく、危険である。その時に利用できる陸橋を把握しておくのと良いが、段差については、障がいの状況によっては利用が難しい場合も考えられる。

(イ) Bグループ

大田区立つばさホーム、森ヶ崎公園、東京労災病院、大森第四小学校から大田区立つばさホームへ戻るルートを歩いた。

まちあるきには、大森南自治会に参加していただくことができたため、大森南地区の特色について、話を伺うことができ新たな発見に繋がった。

災害時に活用できる場所として、舞の浦児童公園のだれでもトイレが設置されていた。また、セブンイレブンは、災害時のセーフティーステーションとなっていた。また、大森南地区は工場地帯が多いため、警察署と地区の工場が有事の際に工場のフォークリフトが使用できる協定を結んでいる。森ヶ崎公園は高台にあるため、津波の際に避難できる場所となっている。

森ヶ崎公園の歩道の付近は道が狭いため、車いすは通りにくかった。全体的に海拔が低い地区ではあるため、津波などの影響は受けやすく感じる。一次避難所である大森第四小学校の正門入口は段差となっていた。商店街に街頭が設置されていたが、地震の際には電球が落ちるリスクが考えられた。

(ウ) Cグループ

障がい者総合サポートセンター、入新井第二小学校、JRガード下をくぐり、内川沿いを歩いて大森第八中学校、マチノマ大森というルート歩いた。ゆっくり歩いたため、時間内に障がい者総合サポートセンターまで戻れずマチノマ大森で解散となった。

Cグループは障がい特性による注意すべき点が多く見られた。音響信号とエスコートが連動していない、道が傾いており車いす走行が大変、マンホール蓋の穴が大きく白杖がはまってしまう、内川のフェンス下に足や白杖がひっかかる、ブロックの歩道はガタガタし結局車道を歩くことになる等の意見が出た。

災害時に活用できる箇所として、内川近くのファミリーマート駐車場が広く、看板も低めに設置されていて安全性が高いことが挙げられた。

普段気づけないところに気づくことが出来てよかったという意見が多かった。

(エ) Dグループ

久が原福祉園、道々橋神社、松仙小学校、東調布公園、雪谷中学校、呑川沿いを通って久が原福祉園に戻るルートをたどった。

道々橋神社（一時集合場所）には、公衆電話、参拝用の手水舎、社務所があった。鳥居が崩れる心配があり、神社への入り口に階段、車止めがあり、車いすユーザーは入れない状態だった。

松仙小学校（避難所）の道沿いは、高いコンクリートの塀があり災害時に崩れる危険がある。小学校の入り口は道が坂になっていることや、段差があり、車いすで入ることは難しそうに見えた。

新幹線のガードを中心に土地がすり鉢状になっていたため、大雨が降った際は、水がたまることが予想される。

東調布公園（一時集合場所）は、公衆電話に加え、AEDや防災無線、大きな公衆トイレがあった。

雪谷中学校（避難所）は、校門もグラウンドも広がった。歩道にカラーコーンが置いてあり、歩きにくかった。

呑川沿いは、橋に差し掛かるたびに急な坂があり車いすやベビーカー、自転車なども通りづらい。ガード下の天井はかなり低くなっていた。

全体的に、道が狭く坂が多い地区だった。車いすを押すことは難しく、高齢者も登るのが大変だと思われる。普段歩いている時には気付かなかったが、区設掲示板や消火器が多くあることに気付いた。

住民として避難所の場所を知るとともに、住んでいる地域や自分の状況に合わせて、集合場所を判断することが大切だと思った。

(3) 各グループの共有

作成した模造紙を各自で確認する時間を予定していたが、時間の関係で次回の専門部会で行う。今回の感想はご意見カードに記入を依頼する。

※次回の日程

専門部会：令和6年1月11日（水）13時30分～15時30分 まちあるき